

泌尿紀要  
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 11 ACTA UROLOGICA JAPONICA November 1987

# 泌尿器科紀要

第33巻 第11号 1987年11月

腎の超音波計測に関する研究 第1報 乳幼・学童児の腎計測	田島 政晴	1735
腎の超音波計測に関する研究 第2報 思春期男女の腎計測	田島 政晴	1742
Single photon emission computed tomography (SPECT) を利用した各種腎疾患の <sup>99m</sup> Tc-DMSA 腎摂取率測定	大石 幸彦・ほか	1749
死体腎移植後無尿期の合併症 一特に創出血について一	西岡 伯・ほか	1755
CDDP 大量投与時の体内動態 一投与方法との関連について一	山本 憲男・ほか	1760
尿路結石再発に関する臨床的検討 (2) 高Ca尿症と尿路結石再発について	村山 鉄郎・田口 裕功	1766
ラット実験的尿酸カルシウム結石症におけるクエン酸塩, クエン酸の結石形成抑制作用(英文)	小川 由英・ほか	1772
酸性尿を示す尿路結石患者に対する多剤併用療法について(英文)	魏 焯 元	1778
尿管に嵌頓したシステイン結石に対するTromethamine-Eによる溶解療法	多田 晃司・ほか	1782
経尿道的尿管碎石術の難易度による尿管の新区分	仲山 實・ほか	1788
膀胱腫瘍に対する内視鏡的エタノール局注療法	嶋 亮・ほか	1794
急性単純性膀胱炎患者からのβ-lactamase産生菌の分離頻度	大川 光央・ほか	1800
ブナゾシンの下部尿路機能に対する作用	西沢 理・ほか	1806
経腹の超音波断層法による前立腺容量の術前推定法について	内藤 善文・ほか	1812
インポテンスを主訴とする134例の脳幹機能の検討(英文)	今川 章夫・ほか	1818
Sexual Stimulation Scoreを用いた性的刺激に対する勃起記録—150例の検討—(英文)	川西 泰夫・ほか	1823
ヒトの尿・精漿でのN-acetyl-β-glucosaminidase(NAG) isoenzymeの比較	安本 亮二・ほか	1827
精巣腫瘍患者の対側精巣組織の検討	後藤 修一・ほか	1830
膀胱腫瘍の転移に関する統計的観察 —日本病理前検輯報(1978~1982年)をもとに—	朴 勺・ほか	1835
兵庫医科大学泌尿器科学教室における1985年の臨床統計	生駒 文彦・ほか	1840
化学療法および手術療法により完全寛解の得られた進行腎細胞癌の1例	五島 明彦・ほか	1846
インターフェロン併用, 8MHz-RF 深部加温療法を試みた進行腎癌の1例	中嶋 和喜・ほか	1851
両側性腎細胞癌の1例	藤沢 正人・ほか	1857
同時性両側腎腫瘍の2例	川村 健二・ほか	1862
水戸済生会病院における腎癌症例 —臨床統計および興味ある2症例報告—	岩田 真二・ほか	1867
腎血管筋脂肪腫の穿刺吸引細胞診 —4症例の検討—	立花 裕一・ほか	1873
膀胱側腔へ進展した原発性腸腰筋腫瘍の1例	小口 健一・ほか	1879
尿管子宮内膜症	高橋 義人・ほか	1884
膀胱平滑筋腫の1例	松崎 章二・ほか	1890
巨大膀胱憩室の1例 一膀胱腫瘍と膀胱憩室腫瘍を合併した症例一	高羽 秀典・ほか	1894
小児前立腺横紋筋肉腫再発の1例	竹内 敏視・ほか	1899
前立腺横紋筋肉腫の1例 一本邦前立腺横紋筋肉腫の統計的観察	清野 耕治・ほか	1906
停留精巣を合併したLeprechaunismの1例	山口 孝則・長田幸夫	1913
複雑性尿路感染症に対するCefotetanの臨床的検討	鈴木 唯司・ほか	1917
前立腺症に対するoxendoloneとα-遮断薬 bunazosin hydrochlorideの有効性の検討—単独使用, 併用使用の3群比較による検討—	熊本 悦明・ほか	1921

## 購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込みれば所定の用紙を送付します。

## 投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
  - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
  - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
    - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す  
例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP
    - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
  - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
  - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg,  $\mu$ g, %, °C などとする。
  - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
3. 掲載
  - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
  - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。
 

宮崎 重	新谷 浩	
吉田 修(主幹)		

ミングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。

- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。

(例：山田<sup>1,3,7)</sup>、田中ら<sup>1,3-10)</sup>によると)

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名  
巻：最初頁～最終頁、発行年

単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。